

K O B E
O J I Z O O



はばたき

March 1996 No.38 神戸市立王子動物園 第38号



「震災対応と干支の始まりの子年」

神戸市立王子動物園 園長 権藤真禎

今年の1月17日『阪神・淡路大震災犠牲者神戸市合同追悼式』が、遺族や市民約5300人の参列のもとポートアイランドホールで厳粛に行われ、犠牲者4522人の御霊に白菊がささげられました。

笹山市長が「震災から1年を迎え、復興元年ともいうべき本年は、住宅の早期建設をはじめ本格的復興に向けて、全力をあげて取り組んでまいります。震災の経験や教訓を風化させることなく、私たちの子孫や世界の人々に正しく伝え、安全で安心して暮らせる21世紀の国際都市として復興・再生をなし遂げることが、私たちに課せられた使命です。」と霊前に誓いました。

市民の憩いの場としての動物園は、多いときで年間130万人の入園者があります。猛獣を含む多くの動物が暮らしており、また遊園地や食堂などもありますので、災害が発生した場合には入園者の安全確保が最優先業務となります。このため私たちは常日頃から設備面でも動物脱出防止を念頭

に、安全装置や強度に高い関心を寄せ対応策に努めてきました。昨年3月、震災後の再開園に先立ち、関係者全員約120人で大がかりな訓練を実施しましたが、いつでも的確な行動がとれるよう訓練を続けなければと心を新たにしているところです。

今年は干支の始まりの子年です。中国の干支占い書「十二属相探原」には子年はいつも豊で、人に素晴らしいチャンスと豊作をもたらし、商売繁盛、お金儲けがしやすい、財産を築くことができる、子年には大きな災難が起こるはずはないと書かれています。

王子動物園で毎年行っている干支の引き継ぎ式に、福をもたらす大黒様のおつかいといわれているダイコクネズミに祈りをこめて登場してもらい、亥年のウリ坊から「大変悪い年でしたが、今年こそは良い年でありますように」との引き継ぎを受けました。そうであってほしいと願っています。

皆様の憩いの場である王子動物園は、日本中から多くの方々に来ていただけるよう努力し、少しでも美しい神戸の街の復興に役立ちたいものです。

K O B E O J I Z O O

はばたき No.38 March 1996

今月の特集 ● ネズミの仲間 & コアラ・オオコウモリ

CONTENTS ● 目次

(敬称略)

表紙 シロオリックス

写真:川上博司

P1~P2. 巻頭言 目次

「震災対応と干支の始まりの子年」

文:園長 権藤真禎

写真と解説:福田元二

P3. 震災この1年

震災後1年間の動物園と動物たちの奮闘の様子をお知らせします。

P4. 新登場の動物たち

写真:川上博司、石川康司

シロオリックス、アムールヒョウなどの新入りたちを写真で紹介いたします。

P5~P6. 飼育トピックス

—ユーカリから見たコアラ—

文・写真:兼光秀泰 イラスト:坂本健輔

コアラとユーカリはとっても深い関係にあります。コアラを守るためには、オーストラリアのユーカリ林も保護しなければならないことを知ってください。

P7.~P8. 干支特集 I —ネズミ—

文:安宅範子 写真:谷岡正之

今年の干支であるネズミは人間に嫌われていますが、元をたどれば私たちの遠い祖先にあたります。かれらを理解すれば、もっと仲良くなれるかもしれませんね。

P9.~P10. 干支特集 II

写真:田中光常、福田元二 文:村田浩一

野生のビーバーの生態を美しい写真で紹介いたします。

P11. モモイロペリカンの一日

文・写真:大山ひとみ

『ふれあい広場』の人気者モモイロペリカンのハウラちゃんは、山口県宇部市にある常盤公園のカッター君の妹です。

P12. 動物相談室 なぜ?どうして?

ゾウに耳くそ鼻くそはあるの?

文・写真:石川康司

ゾウの鼻が、鼻くそでつまったらどうなるの?

ZOOっとタイムズ No.4 漫画:川上博司

ネズミはゾウやゴリラより強い?おなじみの4コママンガでお楽しみください。

P13~P14. 飼育トピックス II

オオコウモリ

文:川上博司 写真:村田浩一、川上博司

コウモリといえば、ドラキュラの映画を思い出しますが、血を吸うのはほんの一部の種類だけです。動物園のオオコウモリは果物を主食としているベジタリアンです。

P15~P16.

アマチュア動物写真コンクール

7回目を迎えた写真コンクールの入賞作品7点をご紹介します。

P17. 資料館特別展

文:安宅範子、 中戸正芳 写真:谷岡正之
動物科学資料館で開催された特別展の記録です。

トピックス 動物園の催し物

文・写真:渡瀬日司、 崎山 修二郎

サマースクール、夜間探検隊、動物命名式など今回も盛りだくさんの催し物がありました。

P18. ねずみ年賀状版画コンクール

正月恒例の賀状版画コンクールの入賞作品です。

編集後記

文:滝田政男

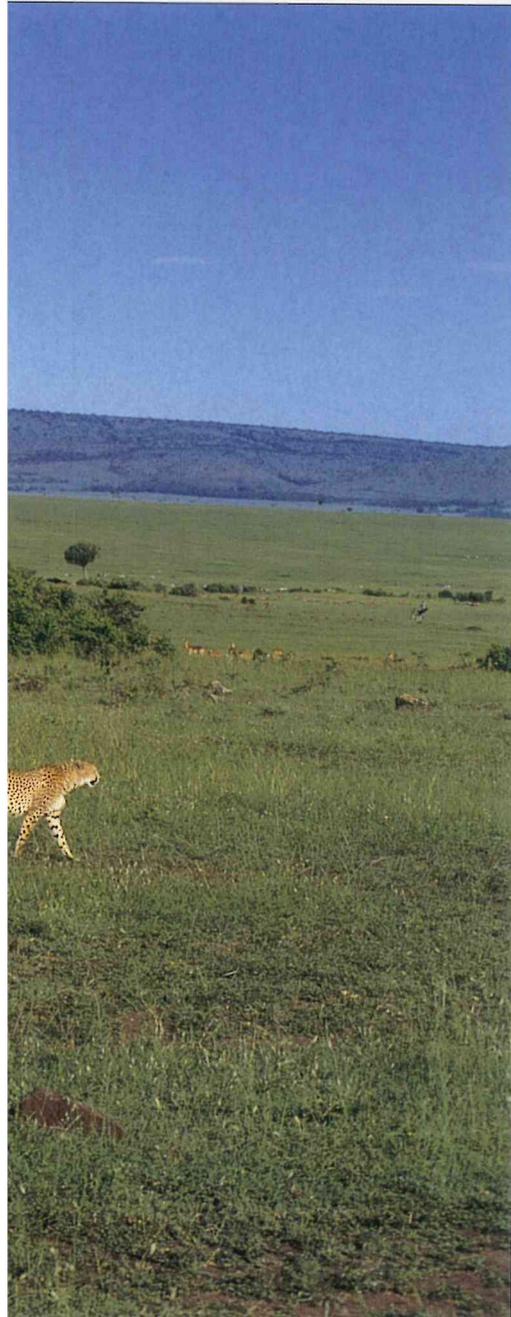
裏表紙

写真:田中光常

表紙の解説

シロオリックス 文:川上博司

動物園ガイドのお知らせ



撮影:福田元二

ケニア・マサイマラ国立保護区を悠然と歩くチーターたち。この保護区では、ゾウ、ライオンに次いで観光客の人気者である。その姿が発見されると、四方八方から観光客を乗せたランドクルーザーやミニバスが殺到してくる。自動車のいない場所へ移動しようとしていたチーターが、車に包囲されて身動きできなくなる場合もある。夕やみが迫る頃、チーターの猛ダッシュを見た。土煙を上げながら一直線にガゼルに迫る。群れは乱れ、必死になって逃げ回るガゼル。結局、チーターの夕食はお預けとなった。陸上動物の中で飛び抜けたスピードをもってはいても、狩りがいつも成功するとは限らない。

近年、数が減っているということだが、この保護区では姿をよく見かけた。少し安心した。

福田元二(動物写真家、元王子動物園職員)

震災この1年

●震災後の主な動物園の出来事など。(震災発生から3月10日までは前号を参照してください。)



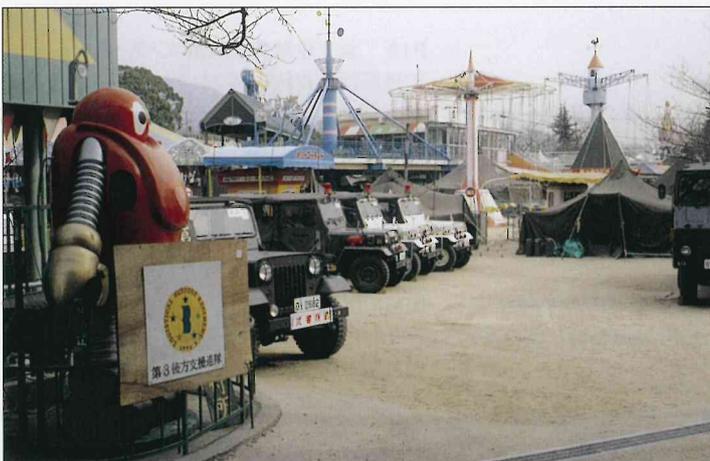
休園を知らせる(入口)

- 3/ 1 「動物とこどもの国」のみ学校に開放。
- 3/10 開園に向けて、獣舎点検、園内整備点検、遊具点検を開始する。
- 3/19 園内関係者全員による「災害発生時の入園者避難誘導訓練」を実施する。
- 3/23 動物園再開(1/17から66日目)。
3月31日までは無料開放とする(入園者31,007人)。
- 3/24 スイスのキンダー・ガーデン動物園から、オスの子ゾウ来園。愛称は募集の結果、「マック」に決まった(7月22日命名式開催)。
- 4/ 1 通常開園。駐車場も再開する。(太陽の動物舎、海鳥舎、旧ハンター住宅は見学できず。)
- 4/27 救援の陸上自衛隊が神戸から撤収(震災発生から100日目)。
隣の王子競技場で「神戸市民による感謝の集い」開催。
- 6/21 3月6日に死亡した金絲猴「愛愛」(1歳11か月)の搬送及び検査のため、動物病院の安田主査(獣医師)が中国へ出張(～25日)。
- 6/24 金絲猴に赤ちゃん誕生(オス、当園で2頭目、中国以外での出産記録は当園を除いてない)。
愛称は募集の結果、「勇勇(ユウユウ)」に決まった。同時期に中国・天津市でも募集し、中国では「嘩嘩(エイエイ)」と名付けられた。11月26日、中国技術団も参加し命名式開催。
- 7/24～29 サマースクール実施(小学生対象、飼育実習をしてもらった。)
- 9/ 9 アムールヒョウのメス来園(旭川市旭山動物園から)。
オスは11月30日、フランクフルト動物園 から来園し、つがいとなる。



震災3か月後の長田区

- 9/17 アマチュア動物写真コンクール表彰式開催。応募総数407枚。
- 10/ 6 シロオリックス来園(熊本市動植物園からメス2頭)。
愛称はプロ野球オリックスB. W. の仰木監督から命名してもらい、「ブルーちゃん」「ウェーブちゃん」に決まる(命名式は11月19日開催)。
- 10/13 秋の風物詩「ペンギンの屋外プールへの移動」実施。
- 10/22・29 夜の動物たちの様子を観察する「夜間探検隊」を開催(3回目)。
- 11/24 金絲猴関係の中国技術団3名来神(～30日)。
- 11/30 S. マスコウィッツ氏から壁画「みんなでお手伝い」の寄贈を受ける。
同氏のキャラクター「パラサ&ディンキーダイノス」が協力して、街を造っているようすを描いたもので、動物科学資料館の休憩ホールに展示。
- 12/ 9 太陽の動物舎及び海鳥舎が利用できるようになる(旧ハンター住宅のみ不可)。
- 12/10 千支の引継式開催。「イノシシ年」から「ネズミ年」へ。
- 1/15 「ねずみ年」賀状版画コンクール表彰式開催(応募総数1,446枚)。
- 1/17 震災1周年。市全体で防災訓練実施。各地で慰霊祭など開催される。

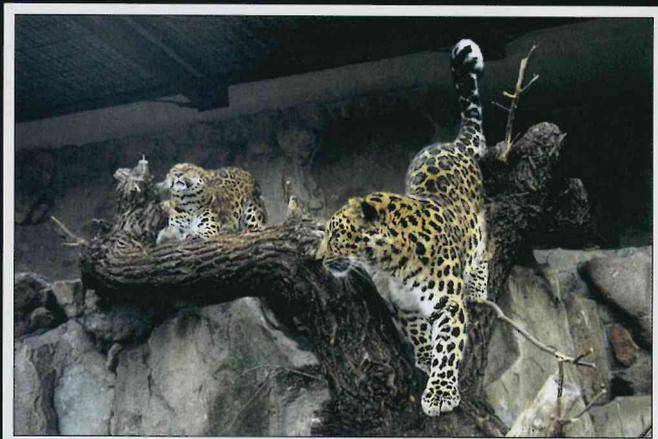


園内の遊園地にも自衛隊のテント、車両が…



「動物とこどもの国」は3月1日から利用開始

新しく仲間入りした動物たち



アムールヒョウ

●アムールヒョウ

アムール地方、中国東北部に生息する(95.9.9.来園)。

●ヒョウモントカゲモドキ

ヒョウのような模様をしたヤモリの仲間で、インド北部から西アジアの乾燥地に生息する。

●ボアコンストリクター

コンストリクターは「締めるもの」という意味。中央アフリカ、南アフリカに生息する大型のヘビです(一般公開はもう少し先になります)。

●シタツンガ

アフリカ中部の湿地や沼地に生息するウシ科の動物です。(95.7.25.来園)

●シロオリックス

アフリカのサハラ砂漠やリビアに生息するウシ科の動物で、カーブした角が特長です(95.10.6.来園)。



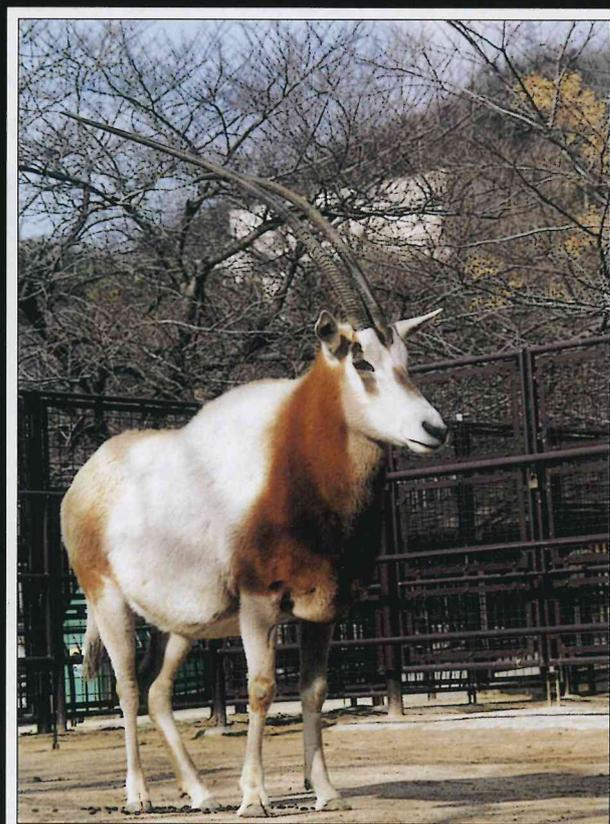
ヒョウモントカゲモドキ



ボアコンストリクター



シタツンガ



シロオリックス



●ユーカリとは

ユーカリは、オーストラリア原産の木で、高さが最大で100mにもなります。ユーカリの仲間は600種以上ありますが、コアラが好んで食べるのは、そのうちのたった6種類ほどです。ユーカリは生長が早く、10年で20～30mにもなるので、造林や街路樹として他の国でも栽培されてきました。また、ユーカリには揮発性の油（ユーカリオイル）が含まれており、石ケンの香料、かぜ薬、のど飴の原料などに利用されています。

●コアラとユーカリ

コアラはユーカリしか食べない動物で、一生のほとんどをユーカリの木の上で過ごします。ユーカリの中に含まれている油には毒性があります。これは、動物に食べられないための自衛手段なのかもしれません。でも、コアラとフクロムササビだけは食べることができるのです。

コアラはユーカリの木に頼って生きています。このためコアラの体は、ユーカリの林の中でくらすのに適応しています。あの大きな鼻を見てもわかるように、嗅覚が発達しており、多くのユーカリの中から食べられる種類をかぎわけることができます。手足も特殊化しています。前足の第1指と第2指は他の3本の指と向かいあっているのです。木を強くつかむことができます。また、後ろ足の第1指を除いたすべての指に長くじょうぶな爪が

あるので、つるつるした木でも簡単に登ることができます。

●コアラの体のしくみ

ユーカリの葉は繊維質が多く、ひじょうに硬いため、コアラの歯もこれを食べるのに便利な形になっています。コアラの歯は、上の門歯が6本、下が2本、犬歯は上に2本だけ、前臼歯は上下に2本ずつ、後臼歯は上下に8本ずつ、全部で30本あります。ユーカリをかみ取るには前臼歯を使い、後臼歯は大きく平たい形をしているので、ユーカリを細かくかみ砕き消化しやすくなっています。

胃で消化されたユーカリは盲腸に運ばれます。コアラの盲腸は、長さ180～240cmで、太さは10～15cm、容積は2リットルもあります。体長との比率では、ほ乳類中最大の盲腸を持っています。

ユーカリにはタンニンが多量に含まれています。タンニンは、柿やお茶などに含まれる渋みの成分で、タンパク質と結合する性質を持っているため、これを分離しなければ栄養として吸収することが

できません。コアラの盲腸内には微生物がたくさんいて、タンパク質からタンニンを分離しています。

このようにコアラの生活はユーカリと密接に関わっているため、コアラを保護するためには、ユーカリの森林を守ることがとても大切なのです。

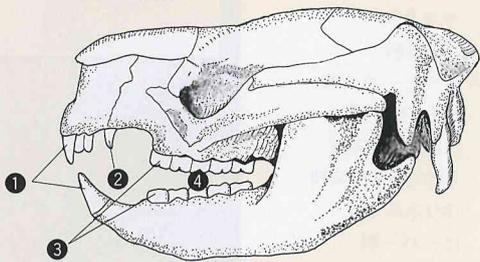


ユーカリから見たコアラ



ユーカリの木(プンクタータという種類)
枝先の茶色い新芽だけを食べます。

コアラの頭骨

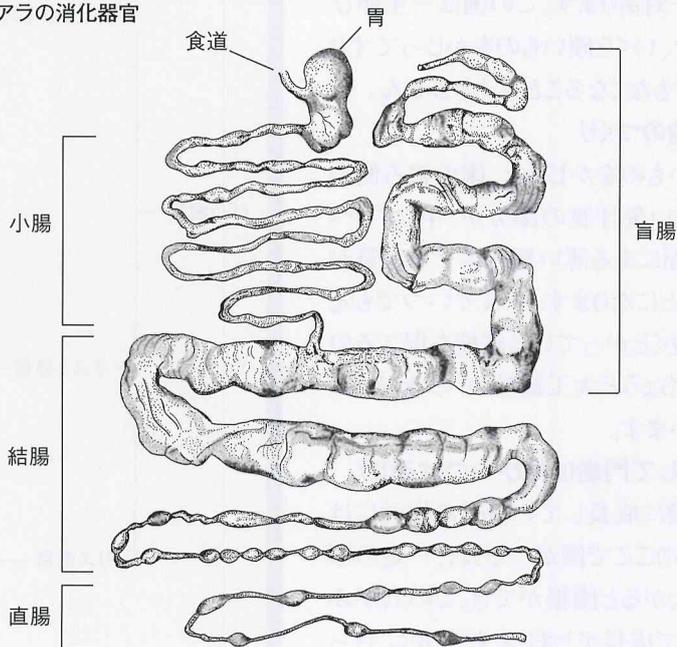


①門歯 ②犬歯 ③前臼歯 ④後臼歯

“カラーサイエンス③コアラ・パンダ”集英社(1985)より写す



コアラの消化器官



“THE KOALA” NEW SOUTH WALES UNIVERSITY PRESS(1988)より写す

ネズミの仲間

げっ歯類とは？

物をかじるネズミの仲間をまとめて「げっ歯類(げっ歯目)」といい、ネズミをはじめビーバー、リス、ヤマアラシなど多くの種類の動物がこの仲間に入ります。

「ネズミ」というと、このげっ歯類をさす場合、もっと狭い意味で使われる場合などさまざまです。げっ歯類は、地上、地下、樹上、水中といろいろな環境を利用し、極地を除く世界中に広がって生息しています。繁殖力もおう盛で、地球上では最も繁栄しているほ乳類です。

【分類】

げっ歯目は、あごの筋肉のつき方によって、リス亜目、ネズミ亜目、テンジクネズミ亜目の3つに分けられます。さらに、29の科に分けられ、種類数は1749種(世界哺乳類和名辞典：1988年)にのぼり、なんとほ乳類の40%以上を占めています。(右表参照)

【特長】

げっ歯類の特長は、硬い木の実でも割ることができる丈夫な門歯(切歯)が上下一対あります。この歯は一生伸びつづけ、いくら硬いものをかじってすりへってもなくなることはありません。

1. 門歯のつくり

硬いものをかじると、歯の後ろ側の軟らかい象牙質の部分が、早くすりへり、前面にある薄い層のエナメル質が残ることになります。それでいつでも先端は鋭くとがっている状態を保てるのです。ちょうど大工道具の「のみ」とよく似ています。

2. どうして門歯は伸びつづけるの？

一般に成長している歯の根元には穴がありここで歯がつくられ、一定の形に仕上がると歯根ができ、この穴がふさがって成長がとまります。しかし、げっ歯類の門歯は大部分は骨の中に埋



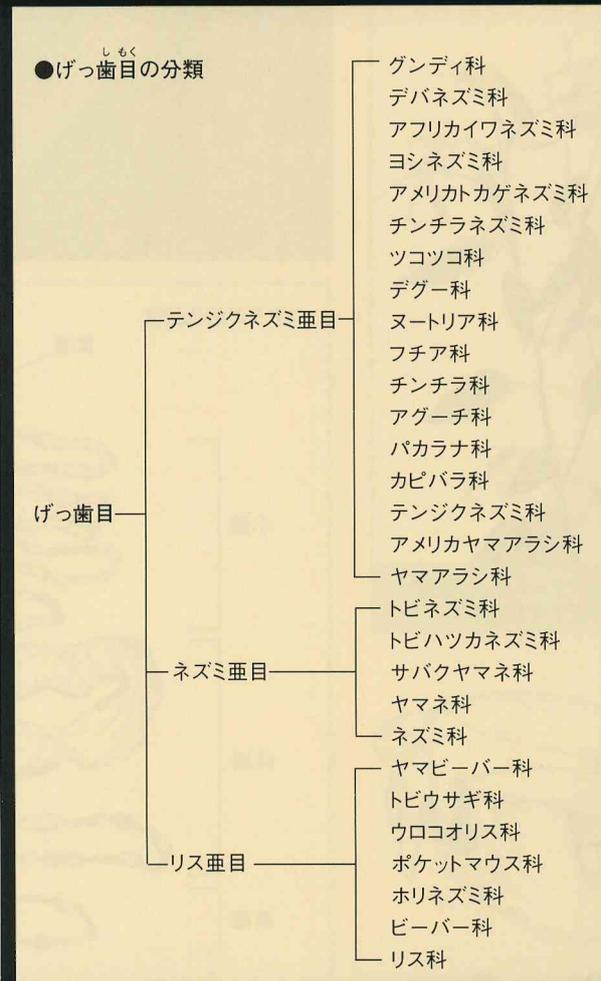
野生のアルプスマーモセット 写真：田中光常



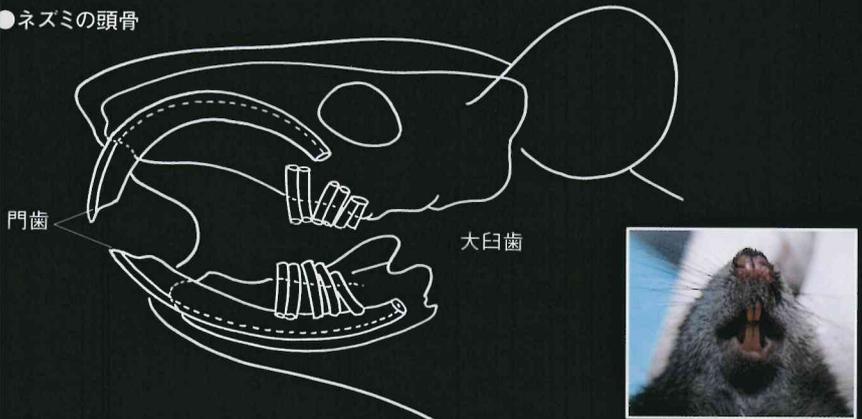
げっ歯類で最も大きいカピバラ



テンジクネズミ(モルモット)



●ネズミの頭骨



ネズミの歯(門歯)



スナネズミ



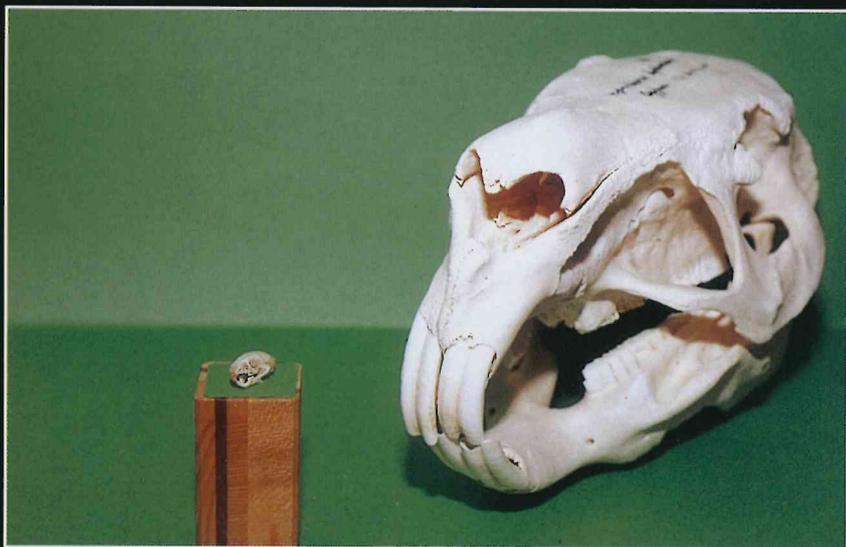
カヤネズミ



マーラ



アフリカタテガミヤマアラシ



カヤネズミ(左)とカピバラ(右)の頭骨

まっており、根元の穴がふさがらず歯根ができなため、どんどん伸びつづけます。だから硬いものをかじらないと伸びすぎてしまうのです。

【大きさ比べ】

日本にすむ野ネズミで「カヤネズミ」というかわいいネズミがありますが、重さは7g前後と1円玉7個分しかありません。世界最小のげっ歯類はトビネズミ科のバルチスタンコミネズミといわれていますが、カヤネズミも最小のクラスに入ります。

最大のものは?という、当園にもいる「カピバラ」です。一般にげっ歯類は小型のものが多くですが、カピバラは例外で大きなものでは体重60kg以上にもなります。

【食性】

食性は植物を中心に昆虫やカエル、トカゲなどの小動物といった幅広いものです。しかし、中には一生のうちほとんど水を口にしない種類や肉食にかたよった種類も見られます。

当園で飼育されているげっ歯類のうち、ヤマアラシやカピバラ、マーラなどは草食性で、動物園では干し草や青草、ニンジン、リンゴなどに加え、ペレット(動物人工固形飼料)を与えています。野生では、木の実や新芽、昆虫などを食べるリスの仲間には、上記の餌と一緒にミルワーム(甲虫類の幼虫)も与えています。

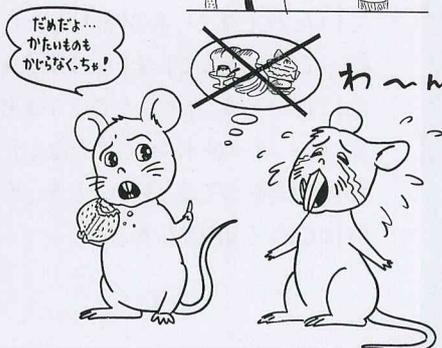
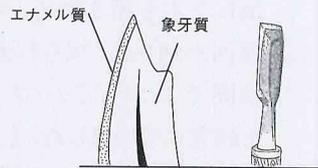


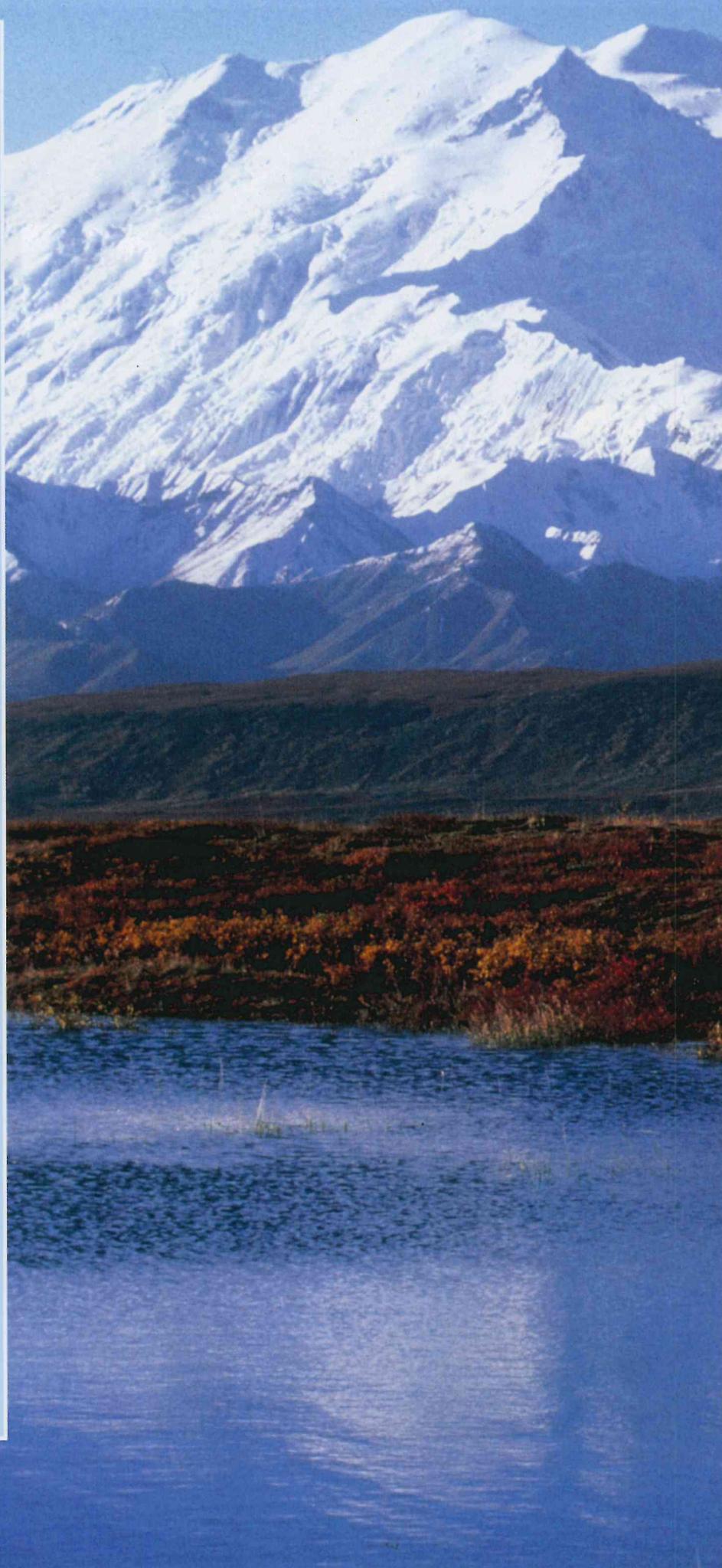


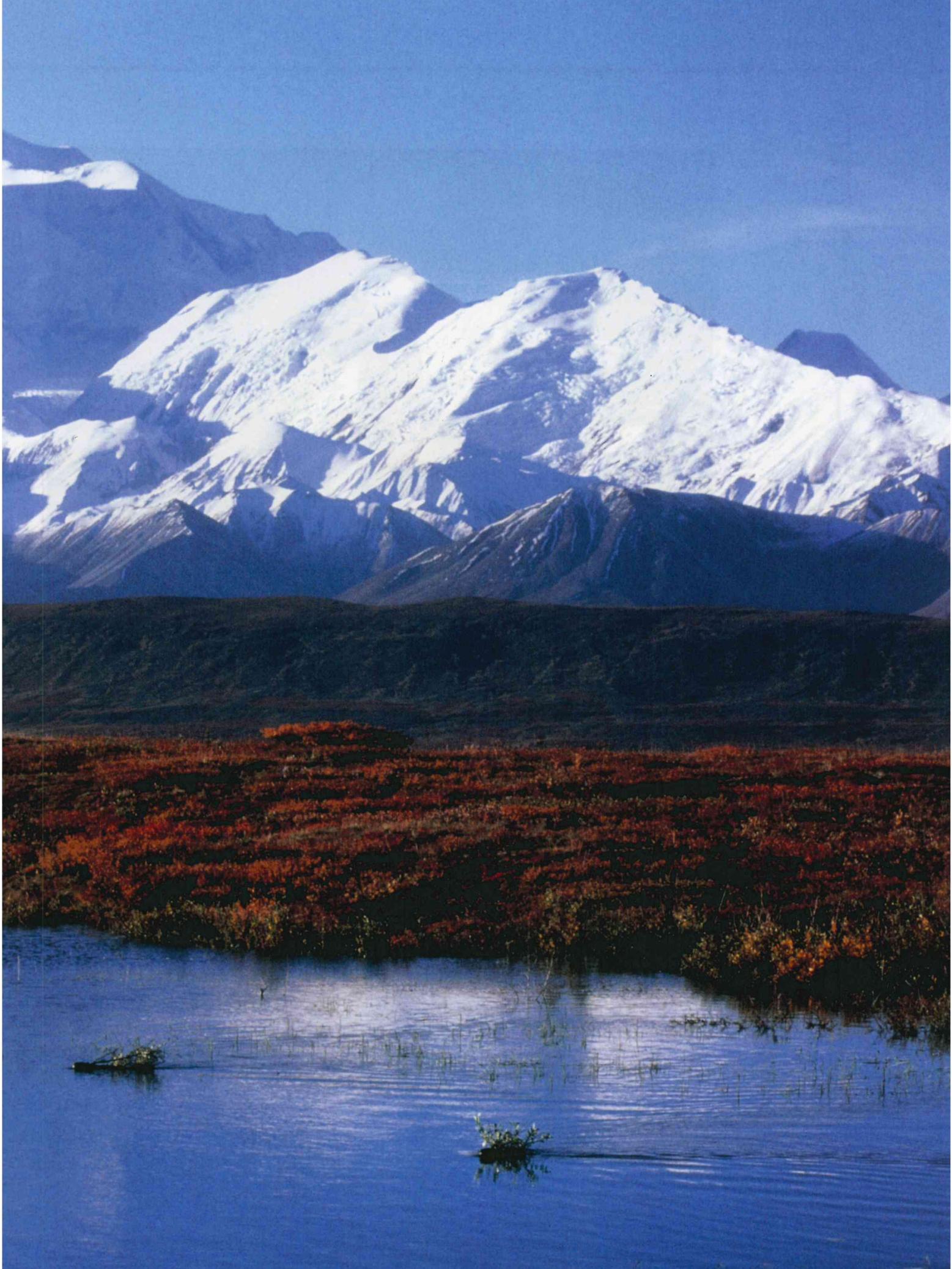
写真:福田元二

ダムをつくることで知られているビーバーもネズミヤリスの仲間(げっし歯目)です。

北アメリカとヨーロッパの湖や川の中に丸太と泥でできた大きな巣をつくり、家族で暮らします。巣の入口は水中にあり、コヨーテやオオカミなどの外敵が侵入するのを防いでいます。ビーバーがダムを建設するのは、この入口がいつも水面下にあるように水位を保つためです。ですから、台風などでダムが壊れて水漏れの音が聞こえてきたら、いち早く修理に取りかからなければなりません。

ビーバーはなわばりでもあるダム周辺の木をたくさん切り倒します。食べるためや、巣の修理に使うためですが、一部は冬場に備えて水中に貯蔵しておきます。天然の冷蔵庫といったところでしょうか。さらに、切り倒した木を運ぶため、ダムに通じる運河が何本もつくられます。王子動物園では、かつてヨーロッパビーバーを飼育していました。土の上で飼っていたのですが、ある時大きな穴を掘って姿を隠してしまい、つかまえるのにたいへん苦労したことがあります。ビーバーが水中だけでなく土の中にも巣をつくるということを、その時はじめて知りました。





ダムや巣の補強のために木の枝を運ぶビーバー。
“as busy as a beaver(ビーバーのように忙しく)”という英語表現があるらしい。

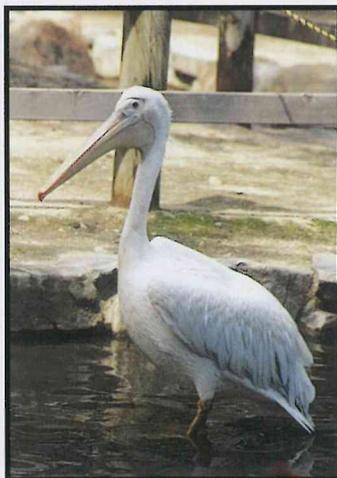
写真:田中光常

モモイロペリカンの一日



モモイロペリカンのハウラちゃん(有名になった宇部市のカッタくんの妹です。)

みなさん、こんにちは。
今回は、ふれあい広場の人気者モモイロペリカンの“ハウラ”について、お話します。みなさんは、ハウラがどんなエサを食べているか知っていますか?肉、野菜、魚、どれだと思いますか?答えは魚です。ハウラは1日約500~800gのアジを食べています。私たち飼育係がハウラ専用のバケツを持っていくと「ワイ!エサだ」といった感じで近よって来て「グオー、グオー」とエサを催促します。ハウラは、あの長いくちばしで上手にアジを頭から丸のみにするんですよ。このエサの時間は、1日3回あるので、ハウラがどのようにしてエ



サを食べているのか、ぜひ見に来てくださいね。
最近ハウラは広場の池で遊ぶのが楽しくらしく、よく泳いでいる姿を見かけるようになりました。のんびりと泳いでいることもありますが、時には、バシャバシャとものすごい勢いで水あびをしたり、池のコイを追いかけてくちばしではさんだりすることもあります。池の外ではハウラの近くにいるみなさんの手や足、頭をパクッとさむことがあります。でもこれは「こんにちは」とあいさつをしているような感じなのでこわがらなくても大丈夫です。こんなハウラですが、気の弱いところもあり、追いかけられたり、驚かされたりすると、せっかく食べたエサをもどしたり1日中エサを食べなくなることがあるので、みなさんやさしく見守ってあげてくださいね。

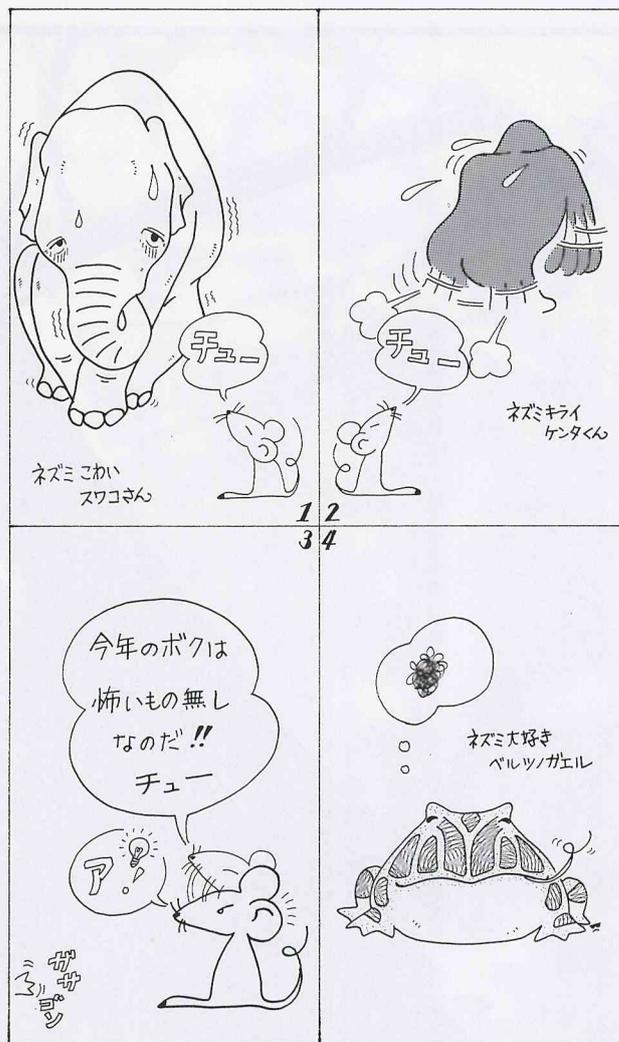
Q. ゾウに鼻くそ、耳くそはありますか？

A. こんな質問を受けたことがあります。さてどうでしょう。

ゾウの鼻の中は毛が生えておらず、粘液でいつも濡れています。これは空気中の異物(ホコリや細菌など)が入るのを防ぐためです。鼻に入ったホコリなどが粘液に付着します。そのまま放っておいたら鼻くそになるかもしれませんが、鼻息で吹き飛ばしたり、水を吸い込んでも飲まないで洗って、流してしまいます。ですからゾウに鼻くそはないといえるでしょう。動物では熱があると鼻の頭が乾くことがあります。以前に王子動物園にいた「摩耶子」が微熱を出したとき鼻の中が乾いていたそうですから、その時は鼻くそがたまっていたかも？

次は耳くその話ですが、うぶ毛に白い粉が付く程度なので、耳くそといえるかどうか疑問です。フレーク状の固まりを見たという話もありますので、一度見てみたいと思っています。見つけたらお知らせします。

動物そうだん室 なぜ？ どうして？



ゾウの鼻の先



ゾウの耳(耳の穴がわかりますか)





インドオコウモリ



一列にならび、いざ出発!! ルーセットオオコウモリ

オオコウモリ2種の比較展示

当園では、夜行性動物舎でインドオオコウモリを長期飼育してきましたが、1995年7月7日に、小型のルーセットオオコウモリを導入しました。これで、『フルーツバット』と呼ばれる、果実食のコウモリを2種類比較展示することになりました。

大型で展示場ではほとんど飛ばないインドオオコウモリと、展示場をところ狭しと飛び回る小型のルーセットオオコウモリについてお話します。

フルーツバットとは…

この呼び名は俗称で、正式にはオオコウモリと呼ばれます。しかし、今回報告しますルーセットオオコウモリのように、小型のコウモリもいます。オオコウモリのすべてが、果実食で、果物や花・樹液などを食べます。

動物園でも、これを基本に数種類

の果実を与えていますが、牛乳も混ぜています。牛乳は嗜好性の面と、蛋白質の補給の意味で与えています。餌は、インドオオコウモリにはビー玉ぐら



いに、ルーセットオオコウモリにはパチンコ玉の半分より小さく切って与えます。たくさんで生活してるので、一人(一頭?)占めを無くすためと、せっかくくわえた餌を床に落とさないためです。

オオコウモリと、普通のコウモリとはどう違うのでしょうか…

普通のコウモリといっても、コウモリの仲間には、オオコウモリ科の42属170種以外に、10科118属692種以上もい

て、動物の血をなめる種や魚を食べる種、昆虫でも食べる種類が決まっている種などさまざまです。

オオコウモリが、こういった種と違う点は、超音波を出し暗やみを飛行するのではなく、目で見ながら飛び、おいで果実を発見する点でしょう。ただし、今回お目見えした、ルーセットオオコウモリは例外的に超音波を利用して飛行するのです。これで、インドオオコウモリと違い展示場をところ狭しと飛び回る理由がおわかりになったでしょう。

「動物園のコウモリは、ぶら下がったままで飛ばへん!」の声を反映し登場した、ルーセットオオコウモリくんたちの華麗な飛行を、みなさんも観察してください。

蛇足ですが、みなさんの身近かで生活しているコウモリはすべて昆虫食(蚊やウスバカゲロウなどの小さな虫)ですから、家庭では飼育できません。バナナは食べませんのであしからず。



サンテレビジョン賞
「カバの大あくび」 井村忠文さん



王子動物園長賞 「たわむれ」 馬田庫吉さん

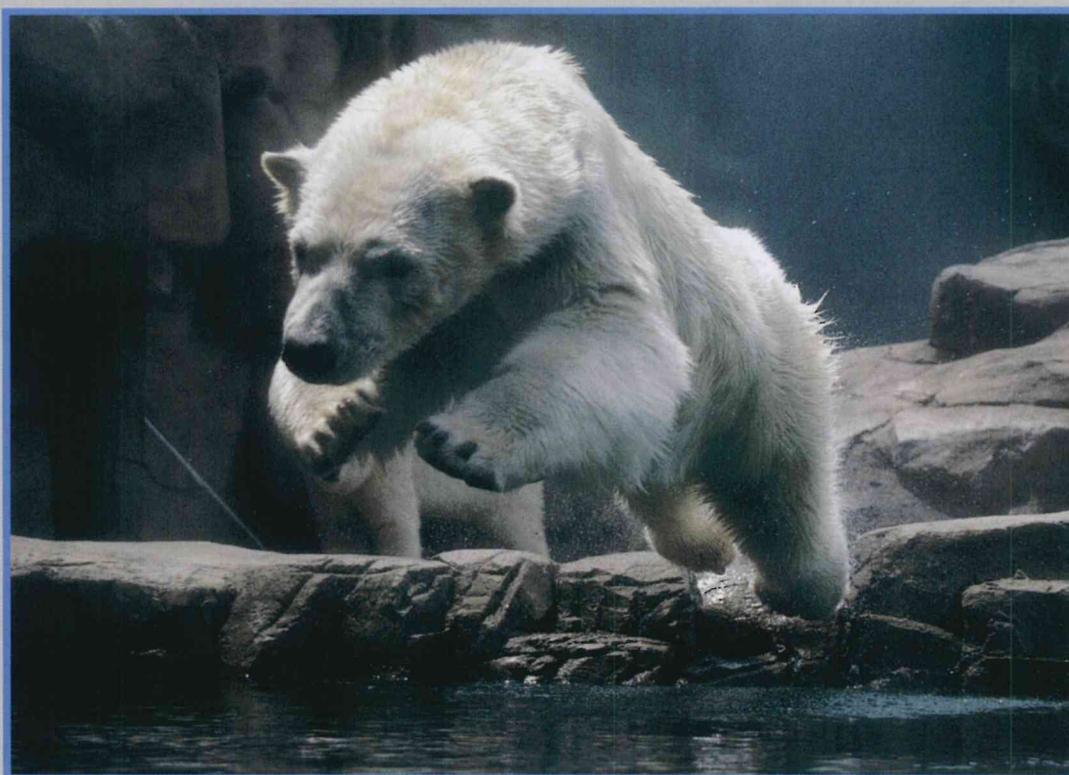


神戸市動物愛護協会長賞 「ハウラの愛想」 武久崇さん

第7回 アマチュア動物写真コンクール

平成7年6月15日～8月5日までの募集期間中、152名の方から407点の応募がありました。ここに特別賞に入賞された方々の作品を、7点ご紹介します。

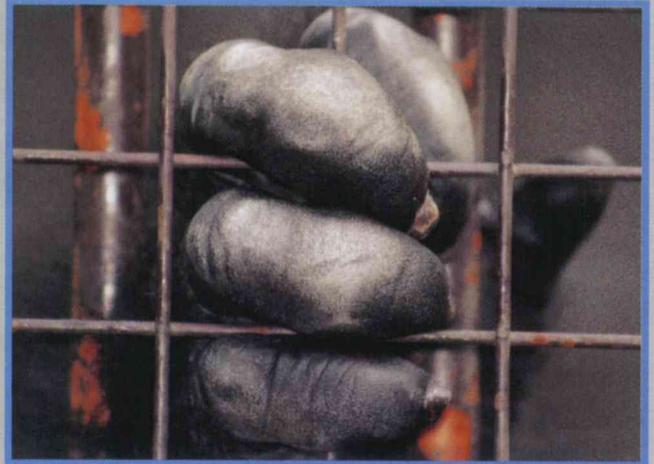
今後も続けますのでふるってご応募ください。



神戸新聞社賞 「ダイビング」 上原照男さん



フジフィルム賞 「しあわせインコ」
河野信子さん



神戸王子動物園協会賞 「指」 福間裕子さん

神戸市長賞 「水浴び」 竹安義雄さん



トピックス 動物園の催し物

●平成8年の干支「ねずみ展」

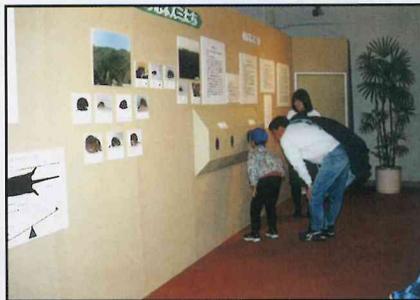
平成7年12月9日～8年2月29日

日本のネズミたちのコーナーをはじめ、ネズミの特徴や分類、また、民話やことわざ、民芸品など、ネズミをいろいろな角度から紹介しました。中でも日本のネズミの代表として、ネズミ科の中では最小といわれている「カヤネズミ」を展示しました。穴をのぞくと、小さなネズミが小鳥のような巣をつくっている様子が観察でき、「かわいい」と大好評でした。

●特別展「動物のしぐさ」

平成7年10月7日～11月28日

園内で見られる動物たちの行動を、映像や写真、イラストなどで紹介しました。



ねずみ展



サマースクール



夜間探検隊

平成7年7月24日～29日(26日は除く)

夏休みの恒例行事である『サマースクール』を開催しました。第25回を迎えた今回は「動物の飼育にチャレンジしよう!」をテーマに開催、市内小学生162名が参加し、動物舎の清掃やエサ作りなど飼育係の仕事の一部を体験しました。次回も楽しいテーマで開催したいと思います。

平成7年10月22日・29日

『第3回動物園夜間探検隊』を開催し、親子60組120名が参加しました。午後6時から探検に出発し、ヘッドランプの灯をたよりにふだんは見ることのできない夜の動物の生態や動物園のようすを観察しました。

なお、募集の詳しい内容は、『サマースクール』が広報こうべ7月1日号、『動物園夜間探検隊』が広報こうべ10月1日号に掲載を予定しています。また、その他イベントも広報こうべで随時お知らせしますので、ぜひご参加ください。

動物の命名式

◆シロオリックスの愛称

平成7年11月19日(日)午前11時

神戸市に本拠を置くプロ野球球団「オリックス・ブルーウェーブ」はみごと初のリーグ優勝を果たし、震災で大きな打撃を受けた神戸市民を勇気づけてくれました。王子動物園では、この市民球団の応援団長としてシロオリックスを熊本市動植物園から導入し、仰木監督から「ブルーちゃん」「ウェーブちゃん」という愛称をつけていただきました。また、王子動物園のオリジナルのぬいぐるみを製作し、好評発売中です。

◆金絲猴の愛称

平成7年11月26日(日)午後2時

平成7年6月24日に生まれた金絲猴の赤ちゃんの愛称は中国天津市と神戸市が同時に募集し、協議して命名しました。日本名は北海道から沖縄まで全国から5,412件の応募があり、「勇勇」と決まりました。震災によって被災を受けた神戸市民を勇気づける意味が込められています。中国名は天津市ラジオ局が募集し、「嘩嘩(イエイエ)」と決まりました。これは日と華を組み合わせたもので日中共同研究の成果をあらわしています。

●第28回「ねずみ年」賀状版画コンクール入賞作品



神戸市長賞
橋本 京子(龍野・龍野高2)



神戸新聞社賞
渡辺 恭代(神崎・中寺小6)



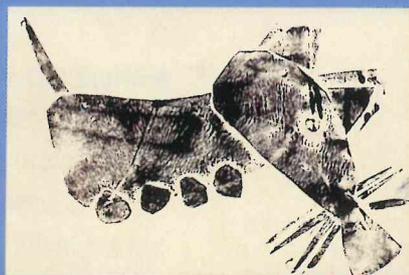
王子動物園長賞
岸本 沙央梨(高砂・米田小1)



神戸王子動物園協会賞
白川 亘昭(神戸・烏帽子中2)



サンテレビジョン賞
儀間 明日花(小野・3歳)



神戸市教育委員会賞
たにぐちはるか(三木・緑が丘幼)



神戸市動物愛護協会賞
山本 恒美(神戸・一般)

平成8年の干支「ねずみ」をテーマにした賀状版画コンクールの入賞作品です。

11月1日～20日までの募集期間中、1,446点の応募がありました。

編集後記

忘れることのできない「阪神・淡路大震災」から、すでに1年2か月経ちました。尊い命を失われました方々には心からご冥福をお祈りいたします。

神戸の街では、崩壊した建築物などはほとんど片付けられ、表向きにはもう震災の傷あとが無くなったように見受けられますが、心に残った傷は消えることはないでしょう。また経済的な損失も大変大きく、立ち直りにどれくらいかかるのか想像もできません。物質的にも精神的にも、一日も早い復興を祈っています。

王子動物園にも温かいご支援をたくさんいただきましたが、動物園自身も市民の皆様にも心の安らぎと明日への活力を提供できる、大変重要な場所であることも痛感しましたので、動物たちとともに頑張ることを誓って、お礼にこえさせていただきます。

『はばたき』38号が完成しましたのでお届けいたします。今号は今年の干支であり、私たちの生活に関係が深い「ネズミ」と、ユウカリとコアラの関係などを特集しました。動物園職員の手作りの機関誌でまだまだ未熟ですが、暗いニュースが多いなか、少しでも楽しい話題を提供できれば編集にたずさわった者として望外のよるこびです。

最後になりましたが、貴重な写真をこころよく提供してくださいました田中光常先生、福田元二先生に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

森林の中を走りまわるネズミ 写真:田中光常



表紙動物の解説

シロオリックス

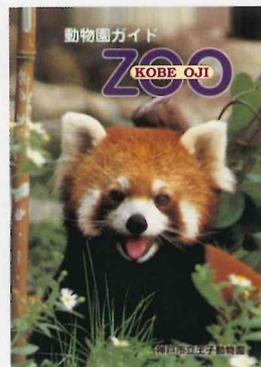
White Oryx ウシ科

シカのように見えますが、アフリカのサハラ砂漠やリビアに生息するウシ科の動物です。他のオリックスと異なって、角が三日月状にカーブしているのが特長ですが、毎年生えかわるシカとちがって、りっぱな角も一度折れてしまうと元にもどりません。また乾燥した土地にも適応し、水を飲まずに数週間から数カ月間も過ごせるといわれています。よく見ると、耳の穴には毛が密集していますね。これは砂漠で砂などが入らないようになっているためです。

神戸市に本拠地をおくプロ野球球団「オリックス」の動物園応援団長として、昨年秋に熊本市動物園から譲り受け、華々しくデビューしました。愛称も同球団の仰木監督に「ブルーちゃん」「ウェーブちゃん」と付けていただきました。角が大きく曲がっている方が「ウェーブ」です。メスなので「イチローくん」にはなれませんが、同球団の活躍のように神戸の復興に貢献できるよう頑張ります。応援してくださいね。

●動物園ガイドができました

王子動物園で飼育している動物の中から代表的なほ乳類52種、鳥類34種、は虫類6種の写真と簡単な解説を掲載するとともに動物とこどもの国や動物科学資料館などのおもな施設、動物園の役割や行事、裏方などを紹介しています。



■A5版 66頁 オールカラー
写真162点 動物の足型3点

■王子動物園内売店(フラミンゴプラザ、コアラプラザ、動物科学資料館)で発売しています。

■定価/一部 700円

■郵送をご希望の方は ☎(078)801-5711へ。(送料別途)



はばたき38号 平成8年3月31日
編集:神戸市立王子動物園
☎078-861-5624
発行:(財)神戸王子動物園協会
☎078-801-5711
神戸市灘区王子町3丁目1
Design:ARTERY Inc.